

目 次

はしがき
凡 例

序 章	債権法の世界	I
1	債権法の世界		1
2	債権と債権法		2
3	本書の構成		6

第 1 部 契 約

1 章	契約の意義・成立	10
1	契約の意義・種類		10
2	契約の成立とは		13
3	申込みと承諾による契約の成立		15
4	定型約款		19
5	第三者のためにする契約		20
2 章	契約の不履行	23
1	契約の不履行と救済		23
2	履行の強制		25
3	債務不履行による損害賠償(要件)		28
4	債務不履行による損害賠償(効果)		35
5	受領遅滞		41

3章	双務契約	43
	1 双務契約の意義	43
	2 同時履行の抗弁	43
	3 危険負担	46
	4 契約の解除	49
4章	売買・贈与・交換	55
	1 売買の意義	55
	2 売買の成立	56
	3 売買の基本的効力・買戻し	57
	4 契約不適合責任(担保責任)	60
	5 贈与	67
	6 交換	69
5章	消費貸借・使用貸借	70
	1 消費貸借の意義	70
	2 消費貸借の成立	70
	3 消費貸借の効力	72
	4 利息の規制	73
	5 使用貸借(付-配偶者短期居住権と配偶者居住権)	74
6章	賃貸借	77
	1 賃貸借の意義・成立	77
	2 賃貸借の効力	79
	3 賃貸借の存続期間	83
	4 賃貸借の終了	86
	5 賃借権の譲渡・転貸	88
	6 賃借権の対抗ほか	91

7章 役務提供契約 96

- 1 役務提供契約とは 96
- 2 雇 用 97
- 3 請 負 99
- 4 委 任 105
- 5 寄 託 107

8章 その他の契約 109

- 1 組 合 109
- 2 終身定期金 113
- 3 和 解 113

第2部 債 権

9章 債権の目的 116

- 1 債権総論の内容 116
- 2 債権の目的 116
- 3 民法典における各種の債権 118

10章 債権者代位権・詐害行為取消権 124

- 1 責任財産の保全(債権の保全) 124
- 2 債権者代位権の意義・要件 125
- 3 債権者代位権の行使・効果 126
- 4 詐害行為取消権の意義・要件 129
- 5 詐害行為取消権の行使・効果 133

11章 連帯債務・保証債務 135

- 1 多数当事者の債権債務関係 135
- 2 連帯債務の意義・成立 137

- 3 連帯債務の効力 138
- 4 保証債務の意義・成立 141
- 5 保証債務の効力 143
- 6 特殊な保証 148

12章 債権の譲渡・債務の引受けほか 149

- 1 債権譲渡の意義・成立 149
- 2 債権譲渡の対抗 150
- 3 債権譲渡の制限 154
- 4 債務の引受け 156
- 5 契約上の地位の移転 158

13章 弁 済 160

- 1 債権の消滅と弁済 160
- 2 弁済の提供 162
- 3 供託（弁済供託） 165
- 4 弁済の受領権者（弁済の相手方） 166
- 5 弁済の証拠・弁済の充当 172
- 6 第三者の弁済・弁済による代位 173

14章 相 殺 176

- 1 相殺の意義 176
- 2 相殺適状・相殺の禁止 177
- 3 相殺の方法・効果 180
- 4 差押えと相殺 180

第 3 部 不法行為ほか

15章 不法行為の意義・要件 186

- 1 不法行為の意義 186

- 2 故意・過失 188
- 3 権利侵害（違法性） 192
- 4 因果関係 198
- 5 不法行為の成立を阻却する事由 199

16章 不法行為の効果 203

- 1 不法行為の効果とは 203
- 2 金銭賠償の原則と差止め 203
- 3 損害の意義と損害賠償の範囲 204
- 4 損害賠償額の算定（損害の金銭的評価） 207
- 5 損害賠償請求権 213

17章 特殊な不法行為 219

- 1 特殊な不法行為とは 219
- 2 責任無能力者の監督義務者の責任 219
- 3 使用者責任 221
- 4 注文者の責任 223
- 5 土地工作物責任 223
- 6 動物占有者の責任 225
- 7 共同不法行為 225
- 8 特別法上の不法行為 228

18章 事務管理・不当利得 233

- 1 事務管理 233
- 2 不当利得の意義 235
- 3 侵害利得 236
- 4 給付利得 238
- 5 その他の不当利得 240

読書案内
 事項索引
 判例索引